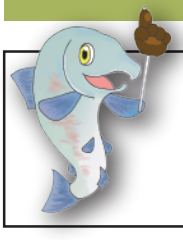
知床科学委員会しんぶん

河川工作物アドバイザー会議 No.6



「河川工作物アドバイザー会議」では、災害から生活を守りながらサケ類が遡上できるように、各専門家が行政機関に対して、ダムの改良工事や遡上調査について助言をしています。しんぶんでは、その活動についてタイムリーな情報をお伝えします！

今回の会議

平成26年2月24日に、今年度2度目の会議が、札幌市中央区の北農健保会館にて開催されました。

構成メンバー

中村　太士【座長】（北海道大学　教授）
帰山　雅秀（北海道大学　特任教授）
小宮山英重（野生鮭研究所　所長）
妹尾　優二（流域生態研究所　所長）
丸谷　知己（北海道大学　教授）
※河口　洋一（徳島大学　准教授）
※谷口　義則（名城大学　准教授）

※オブザーバーとして参加して頂きました。

今回話し合ったこと

①イワウベツ川、チエンベツ川、サシルイ川、羅臼川の遡上モニタリング調査結果について
②ルシャ川、テッパンベツ川、ルサ川における、サケ類遡上の長期モニタリング調査結果について
③オショロコマ生息状況の長期モニタリング調査結果について
④今後のダム改良について
⑤世界遺産委員会決議に係る今後の対応について

必見！TOPIC

改良第２弾として、改良を先行的に行うダムが選定されました！！

５河川13基のダム改良が終了したことを受け、「改良をするとサケ科魚類の生息環境等の改善が図られる可能性があるものの、防災機能等への全体的な影響が大きいため、当面【現状維持】と評価した河川工作物」の、８河川35基のダムを「第２次検討ダム」としました。

平成26年度はこの第２次検討ダムについて、全体的な影響を判断し改修可能で改良の必要性が高いものについて具体的な検討を行っていきます。

また、これまでのダム改良の経験を活かして先行的に改良の検討を行うダムとして、オッカバケ川２基、モセカルベツ川１基のダムを選定しました。

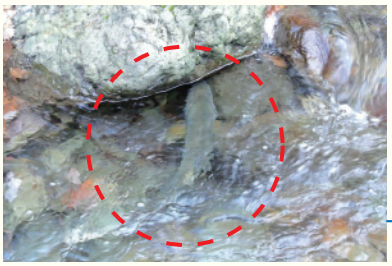
▲オッカバケ川

▲モセカルベツ川

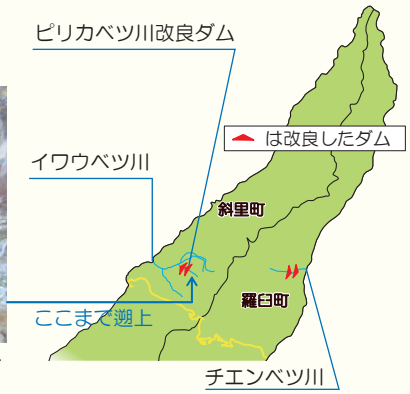
ココ注目！

ダム改良の効果！

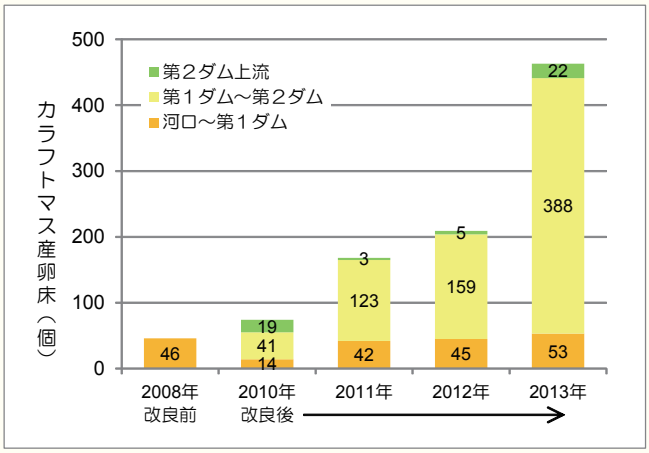
- イワウベツ川支流のピリカベツ川の改良ダム（河口から3,200m）の上流では、以前よりサクラマスの遡上は確認されていましたが、2013年は初めてシロザケの遡上が確認されました。
　秋に雨が多く降り、河川が適度に増水して、シロザケの遡上にちょうど良い条件が生じたものと考えられます。



▲ピリカベツ川改良ダム上流のシロザケ

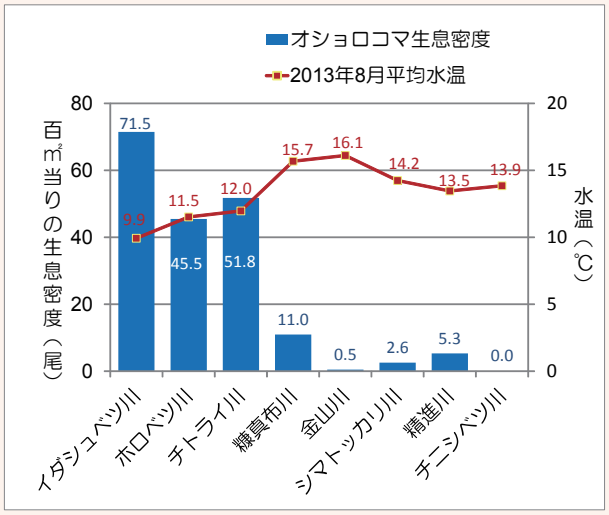


- 「改良したダムの効果が続いているか？」を確認するために、産卵床カウントなどの遡上モニタリング調査を行っています。
　チエンベツ川の場合、ダム改良後、その上流でのカラフトマスの産卵床数が多くなりました。
　その後も産卵床数は増加傾向にあり、ダム改良の効果は継続しています。



オショロコマの長期モニタリング！

　オショロコマの長期モニタリングでは、2013年は36本の河川を対象に7月、8月、9月の水温を観測しました。また、8本の河川でオショロコマの生息密度を調査しました。オショロコマは水温に敏感で、水温が16℃を越えるとあまり餌を食べなくなるといわれています。
　今回の調査では、8月の平均水温が低いほどオショロコマの生息密度が高く、逆に平均水温が高いほど生息密度が低いという傾向が見られました。
　知床の気温は上昇傾向にあるといわれていますが、これに伴って「水温も上昇していくのか？」その場合「オショロコマにどう影響していくのか？」について長期モニタリングで調べていきます。



会議の内容をもっと知りたい方はコチラ

知床データセンター
http://dc.shiretoko-whc.com/

■ 問合せ先 ■

北海道森林管理局 知床森林生態系保全センター
〒099−4355
斜里町ウトロ東番外地（国設知床野営場内）
TEL：0152-24-3466
FAX：0152-24-3477

■ 発　行：林野庁北海道森林管理局
■ 制　作：株式会社 森林環境リアライズ
■ 発行日：2014年3月7日

人間の都合で改変してきた河川流域。知床半島の各河川も例外ではありません。河川工作物による魚類の移動阻害、生物にとっての河川構造の変化など…。豊かな河川流域は、人間を含めた各種生物が安心して利用しあえる空間です。
　知床世界自然遺産区域内においても、それらを目指して魚道の設置や河川構造の改良を行いながら、知床半島の生態系が確立しつつあります。
　この知床世界自然遺産区域が世界に誇れるように頑張っていきたいと思います。

委員　妹尾優二

委員の妹尾です。

1994年、流域生態研究所を主宰。水がつくる川のしくみと、そこで生活する各種生物の生態行動を研究しながら生物たちのメッセージを的確に伝えられるよう原生林や川を駆けめぐっています。